

# 三河の昆虫

No. 40

1993年2月

〒444-35  
岡崎市舞木町狐山6-4  
大平仁夫方  
三河昆虫研究会 発行

MIKAWA NO KONTYU *Published by*  
The Mikawa Insects Association

## 愛知県に産するクビボソハムシ亜科について

山崎 隆弘

### はじめに

愛知県には200余種のハムシ科(Chrysomelidae)甲虫を産するが、このうちクビボソハムシ亜科(Criocerinae)に属するものは15種である。日本産は31種であるので、これの約50%にあたる。

1990年に愛知県から刊行された「愛知県の昆虫・上」のなかにも、これらを含むものがまとめられているが、ここでは、クビボソハムシ亜科についてのみ若干の補足と解説をしたい。

本稿を草するにあたり、日頃ご指導を頂いている大平仁夫博士、大野正男教授、穂積俊文先生の方々に対し、ここに厚く感謝申し上げます。

### 各地におけるファウナの研究概要

愛知県の自然景観は変化に富んでおり、島嶼、半島、平野、大河川、溪谷、湿原、湖沼、低山地、高原、山岳と各ステージの環境がある。

クビボソハムシ類はこうした自然環境のなかから、個々に適応した場所を生活圏としている。

表1に示したものは、これまでに得られた資料により、愛知県の各地域における種の分布表である。これをもとに、それぞれの地域におけるファウナの研究の足跡と、クビボソハムシ相についての概要を述べてみたいと思う。

表1.

クビボソハムシ亜科の地域別分布表

	三河湾島嶼	知多・渥美半島	名古屋	尾張	西三河	東三河南部	尾張山系	本宮山・南岳	北設山岳
ルイスクビナガハムシ				○				○	○
ホソクビナガハムシ					○	○	○	○	○
キイロクビナガハムシ					○	○	○	○	○
アカクビナガハムシ						○	○	○	○
ルリクビボソハムシ	○	○				○	○	○	○
トゲアシクビボソハムシ	○	○		○					
キバラルリクビボソハムシ			○					○	
アカクビボソハムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スゲクビボソハムシ	○	○		○				○	
キオビクビボソハムシ						○			
キベリクビボソハムシ				○	○	○			○
ヤマイモクビボソハムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トホシクビボソハムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イネクビボソハムシ				○					○
セスジクビボソハムシ	○	○							
確認数	7	7	4	8	5	9	8	10	10

#### 〔三河湾島嶼〕

三河湾の島嶼からは7種が見出されている。山崎(1978)によるアカクビボソハムシ、ヤマイモハムシ、山崎・穂積(1990)によるルリクビボソハムシ、スゲクビボソハムシ、ヤマイモハムシ、トホシクビボソハムシ、セスジクビボソハムシの記録がある。その他、最近の筆者の調査では佐久島からトゲアシクビボソハムシを確認している。この地域からはユリハムシ属は未知である。

#### 〔知多半島・渥美半島〕

知多半島では今のところ小島(1987)によるト

ホシクビボソハムシのみである。渥美半島からは大野(1969)によるアカクビボソハムシ, 山崎(1980)によるヤマイモハムシ, アカクビボソハムシの記録がある。浅岡(1991)の記録も同様の種である。また, 大平(1982)によるトホシクビボソハムシ, 最近では, 山崎(1992)によるトゲアシクビボソハムシ, スゲクビボソハムシ, セスジクビボソハムシが記録されている。この地域からもユリハムシ属は未知である。

#### 〔名古屋市〕

都市部周辺の丘陵地, 河川敷などが主な生息場所となる。守山区と東区から穂積(1966)によるアカクビボソハムシ, ヤマイモハムシ, 東区古出来町からトホシクビボソハムシ, 東区から山崎・穂積(1990)によるキバラルリクビボソハムシが記録されているにすぎない。この地域からは, 今のところクビボソハムシ属のみ4種を産する。

#### 〔尾張〕

濃尾平野を流れる木曾川の河川敷, 周辺部の丘陵山地や湖沼などがあり興味深い地域である。小牧市から穂積(1966)によるアカクビボソハムシ, 定光寺からキベリクビボソハムシが記録されている。

尾張地方の北部からは, 犬山市から阿江・ほか(1974)と大竹(1982)によるトホシクビボソハムシ, 春日井市から松井・ほか(1977)によるトホシクビボソハムシ, イネクビボソハムシが記録されている。また, 尾張旭市から西山(1980)によるイネクビボソハムシの記録もある。この地域からは, 今のところ8種を産する。

#### 〔西三河〕

幡豆地方は調査の遅れている地域であるが, 吉良町から山崎(1990)によるヤマイモハムシの記録と, 幡豆町からセスジクビボソハムシが確認されている。岡崎市からは大平(1985)によるキイロクビナガハムシ, ルリクビボソハムシ, ヤマイモハムシ, トホシクビボソハムシの記録がある。

豊田市の周辺部は豊かな自然環境で昆虫類も多いところであるが, 岩月(1952, 1978)によるトホシクビボソハムシ, 岩月(1979)によるアカクビナガハムシ, アカクビボソハムシ, ヤマイモハ

ムシの記録があるにすぎない。この地域からは, 今のところ5種を産する。

#### 〔東三河南部低山地〕

蒲郡付近は温暖な気候に恵まれ, 暖地系の昆虫が多い。蒲郡市からは山崎(1975)によるカワリクビボソハムシ, 遠望峰山〜宮路山一帯からは山崎(1988)によるキイロクビナガハムシ, ルリクビボソハムシ, ヤマイセハムシ, トホシクビボソハムシの記録がある。御津町からは山崎(1988)によるルリクビボソハムシ, 浅岡(1991)によるキイロクビナガハムシ, アカクビナガハムシ, ルリクビボソハムシ, ヤマイモハムシ, トホシクビボソハムシの記録がある。豊川市周辺では, 財賀寺から山崎(1978)によるキベリクビボソハムシ, 山崎(1988)によるホソクビナガハムシ, キイロクビナガハムシ, アカクビナガハムシ, ルリクビボソハムシ, ヤマイモハムシの記録がある。この地域からはヒメクビボソハムシ属は未知である。

#### 〔弓張山系〕

愛知県東部の静岡県との境界に連なるのが弓張山系と云われる一帯で, 葦毛湿原から大平・ほか(1978)によるアカクビナガハムシ, 石巻山から伊藤(1964)によるルリクビボソハムシ, トホシクビボソハムシ, 豊橋市東部から穂積(1982)によるヤマイモハムシ, ルリクビボソハムシ, 新城市船着山から山崎(1986)によるキイロクビナガハムシ, ルリクビボソハムシ, アカクビボソハムシ, キベクビボソハムシ, ヤマイモハムシが記録されている。この地域からは, 今のところ8種を産, ヒメクビボソハムシ属が未知である。

図1. 各地域の概念図



## 〔本宮山・作手・南設楽〕

本宮山(789 m)は東三河を代表する山の一つであるが、ここからは穂積(1985)によるキイロクビナガハムシ、山崎(1989)によるホソクビナガハムシ、キイロクビナガハムシ、ルリクビボソハムシ、ヤマイモハムシが記録されている。

本宮山の北は作手高原が広がる。作手村誌には原田・ほか(1982)によるキイロクビナガハムシ、アカクビナガハムシ、キバラルリクビボソハムシの記録がみられる。また、山崎(1990)はホソクビナガハムシ、ルリクビボソハムシ、アカクビボソハムシ、ヤマイモハムシを記録している。

鳳来町からは神谷(1955)によるルイスクビナガハムシ、山崎(1991)によるホソクビナガハムシ、アカクビボソハムシ、スゲクビボソハムシ、ヤマイモハムシ、トホシクビボソハムシの記録がある。この地域では種類も多く10種を産する。

## 〔北設山岳〕

愛知県の屋根といわれるこの一帯は、茶臼山(1,415 m)をはじめ日本ヶ塚山、面ノ木峠、段戸山、明神山など1,000 mを越える山岳が連なる地域である。したがって、多くの種はここから記録されている。

この一帯から神谷(1955)によるルイスクビナガハムシ、ホソクビナガハムシ、アカクビボソハムシ、ルリクビボソハムシ、キベリクビボソハムシ、トホシクビボソハムシ、イネクビボソハムシの記録がある。

設楽町からは穂積(1977)によるルイスクビナガハムシ、佐藤・ほか(1983)によるホソクビナガハムシ、アカクビナガハムシ、ヤマイモハムシ、イネクビボソハムシ、茶臼山高原道路から佐藤(1976)によるルリクビボソハムシ、キベリクビボソハムシ、トホシクビボソハムシ、イネクビボソハムシ、豊根村から山崎(1980)によるキイロクビナガハムシ、アカクビナガハムシ、アカクビボソハムシ、ヤマイモハムシ、富山村から山崎(1978)によるルイスクビナガハムシ、アカクビナガハムシ、アカクビボソハムシ等の多くの記録がある。この地域も10種で種類も豊富である。

## 種の解説

## ユリハムシ属

Genus *Liliocerus* Reitter, 1912

*Liliocerus Lewisi* (Jacoby, 1885)

ルイスクビナガハムシ

本種は1885年、Jacobyが*Criocerus lewisi*の学名で記載したものである。個体によっては、班紋が中央部・会合線沿いの黒条が鮮明なものから、消失するものまである。愛知県から得られるものは、黒条のはっきりしているものである。

分布域は本州・四国で、日本固有のハムシである。愛知県からは、神谷(1955)による設楽町裏谷・鳳来寺町阿寺の記録が最初と思われる。その後、豊根村茶臼山、富山村、稲武町面ノ木峠など主として奥三河山間部で確認されている。平地では犬山市木曾川堤(土井1938)の記録は興味深い。

5.6月に出現するが、この地方での産地は限られているようで、どちらかといえば珍しい種に属している。

*Liliocerus parvicollis* (Baly, 1873)

ホソクビナガハムシ

本種は1873年、Balyが*Criocerus parvicollis*の学名で記載したものである。

分布域は本州・四国・九州で、日本固有のハムシである。愛知県からは、神谷(1955)による豊根村茶臼山・設楽町裏谷の記録が最初と思われる。その後、三河山間部でも各地で記録されている。まだ、尾張地方や渥美半島では採集されていない。食草はサルトリイバラで、この地方の各所にふつうに自生しているものであるが、本種はそれほど多くない。(図2, A)

*Liliocerus rugata* (Baly, 1865)

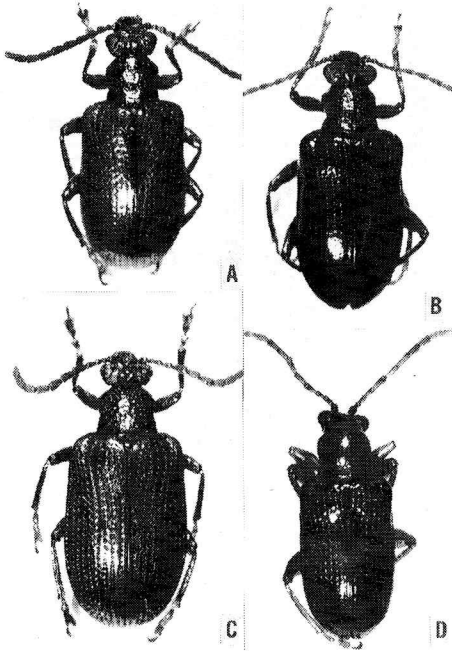
キイロクビナガハムシ

本種は1865年、Balyが*Liliocerus rugata*の学名で記載したものである。

分布域は本州・四国・九州である。愛知県からは、山崎(1980)による豊根村三沢の記録が最初と思われる。その後、三河の各地で記録されているが、まだ尾張地方や渥美半島からの記録はない。食草はこの地方に多いヤマイモである。(図2,

C)

図 2.



A, ホソクビナガハムシ B, ルリクビボソハムシ  
C, キイロクビナガハムシ D, キオビクビボソハムシ  
*Lilioceris subpolita* (Motschulsky, 1860)

アカクビナガハムシ

本種は1860年, Motschulskyが*Crioceris subpolita*の学名で記載したものである。

分布域は本州・四国・九州等, 日本列島に広く分布する日本固有のハムシである。愛知県からは, 神谷(1955)による豊根村茶臼山・設楽町裏谷の記録が最初と思われる。その後, 東三河の各地で記録されているが, 個体数は多くない。山崎・穂積(1990)「愛知県のハムシ科」では, 三河湾の木島にも記録されているが, これは誤記録であるので, ここに訂正しておく。本種はまだ尾張地方と渥美半島および三河湾からは採集されていない。

## クビボソハムシ属

Genus *Lema* Fabricius, 1798*Lema cirsicola* Chujo, 1959

ルリクビボソハムシ

本種は1959年, 中条(Chûjô)が*Lema cirsicola*の学名で記載したものであるが, 以前は, *Lema puncticollis*とみなされていた。

分布域は, 北海道・本州・四国・九州である。愛知県からは, 神谷(1955)による設楽町裏谷の記録が最初と思われる。その後, 尾張地方を省く全域から記録されている。アザミ類に少なくない。灯火に飛来したのも確認している。(図2, B)

*Lema coronata* Baly, 1873

トゲアシクビボソハムシ

本種は1873年, Balyが*Lema coronata*の学名で記載したものである。色彩・斑紋に変化がある。このため, 九州・台湾に産するものが, *Lema saqaensis*, *Lema fomosana*, *Lema coronata* subsp. *takanabensis* 等として扱われていた。多型現象のある種でツマキ型のものを f. *fomosana* という。

分布域は本州・四国・九州・琉球; 中国南部・台湾である。愛知県からは, 山崎・穂積(1990)による立田村一色の記録が最初と思われる。その後, 渥美半島の豊橋市細谷町や三河湾の佐久島からも記録された。また, 灯火に飛来した個体も確認している。

*Lema concinnipennis* Baly, 1865

キバラルリクビボソハムシ

本種は1865年, Balyが*Lema concinnipennis*の学名で記載したものである。

分布域は北海道・本州・四国・九州・琉球(尖閣列島); 朝鮮半島・中国・台湾・フィリピンである。愛知県からは, 原田・ほか(1982)による作手村の記録が最初である。また, 1943年に名古屋市東区で得られたものが, 山崎・穂積(1990)によって記録されている。現在のところでは, この2例しかないものと思われる。

*Lema diversa* Baly, 1873

アカクビボソハムシ

本種は1873年, Balyが*Lema diversa*の学名で記載したものである。1873年, Balyが長崎産の標本に基づいて記載した*Lema lewisii*は, 湯浅(1939)によって*diversa*の変種として扱うべきと提唱された。また, 安富(1950, 1951)によって, 本種の交雑実験の結果, 遺伝的な一型で, *lewisii*を亜種することは妥当ではないとの結論が下されている。

分布域は本州・四国・九州；朝鮮半島・中国北部等である。この地方はごくふつうの種である。愛知県からは、穂積(1966)による名古屋市守山区守山の記録が最初と思われる。その後、三河湾島嶼を含め県下の全域から記録されているが、愛知県から得られるものは、*f. lewisii*(ツマキ型)である。本種には他に、*f. akaheri*(アカヘリ型)*f. doii*(クロスジ型)、*f. norii*(アトモン型)があるが、大野(1967)によれば、*f. lewisii*の分布がもっと広く、ふつうと言うことである。

*Lema dilecta* Baly, 1873

スゲクビボソハムシ

本種は1973年、Balyが*Lema dilecta*の学名で記載したものである。

分布域は北海道・本州・九州であるが、日本産*Lema*属の最小の種である。愛知県から記録されたのは最近になってからで、山崎・穂積(1990)による立田村下一色の記録が最初と思われる。その後、渥美半島の豊橋市細谷町や三河湾の佐久島からも得られている。食草はスゲの一種である。今のところ、平地で得られる場合が多く、奥三河では山崎(1991)による鳳来町の記録があるにすぎない。全国的には珍しい種に属するようである。

*Lema delicatula* Baly, 1873

キオビクビボソハムシ

本種は1873年、Balyが*Lema delicatula*の学名で記載したものである。

分布域は本州・四国・九州；朝鮮半島・中国・台湾・フィリピンである。

本種は、今のところ愛知県からは山崎(1990)による蒲郡市五井町の記録が唯一となっている。西日本では比較的多く産するが、東日本には少ない。体長4.5mmの小型種であるので発見されにくいかも知れないが、特徴のある種なので同定は容易である。食草のツクサは各所に多い。(図2, D)

*Lema adamsii* Baly, 1865

キベリクビボソハムシ

本種は1865年、Balyが*Lema adamsii*の学名で記載したものである。

分布域は、本州・四国・九州；朝鮮半島・中国

である。この地方では珍しい種に属する。愛知県からは神谷(1955)による設楽町裏谷の記録が最初である。その後、瀬戸市定光寺、面ノ木峠付近、豊川市財賀寺、新城市船着山で記録されているにすぎないが、食草のヤマノイモは、この地方では特に多いもので、本種がもっと採集されてもよさそうに思われるが、いずれの場所でも個体数は少いようである。

*Lema honorata* Baly, 1873

ヤマノイモハムシ

本種は1973年、Balyが*Lema honorata*の学名で記載したものである。

分布域は本州・四国・九州；朝鮮半島である。この地方ではもっともふつうに産する種で、愛知県からは、穂積(1966)による瀬戸市定光寺の記録が最初と思われる。食草はヤマノイモで、三河湾島嶼を含む全域に産し、いずれの産地でも個体数は多い。

*Lema decempunctata* Gebler, 1830

トホシクビボソハムシ

本種は1830年、Geblerが*Lema 10-punctata*の学名で記載したものである。

分布域は、本州・四国・九州；朝鮮半島・満州・中国北部・シベリアである。

愛知県からは、神谷(1955)による豊根村茶臼山・設楽町裏谷の記録が最初と思われる。本種は、三河湾島嶼を含めた各所にきわめてふつうである。三河湾の佐久島、篠島、日間賀島等から得られた個体には*f. brunneipennis*(無紋型)のものが多。食草はクコである。

ヒメクビボソハムシ属

Genus *Oulema* Des Gozis, 1886

*Oulema oryzae* (Kuwayama, 1931)

イネクビボソハムシ

本種は1931年、桑山(Kuwayama)が*Lema oryzae*の学名で記載したものである。

分布域は、北海道・本州・四国・九州・琉球(与那国)；朝鮮半島・中国・台湾等で、広範囲分布種のひとつである。

愛知県からは、神谷(1955)による設楽町裏谷の記録が最初と思われる。愛知県での記録はきわ

めて少なく、面ノ木峠付近、設楽町田口、春日井市、尾張旭市森林公園があるにすぎない。食草はイネ、カヤ類などであるが、イネの害虫としても知られている。

*Oulema atosuturalis* (Pic, 1923)

セスジクビボソハムシ

本種は1923年、Picが*Oulema atosuturalis*の学名で記載したものである。

分布域は、本州・四国・九州・琉球；中国南部・台湾・インドシナである。

愛知県からは、山崎・穂積(1990)による一色町佐久島の記録が最初と思われる。その後、三河湾の篠島小磯島と渥美半島の田原町からも得られている。いずれも、産地が海岸地方に限られた場所で得られている。

以上、愛知県から得られた15種のクビボソハムシ亜科の概略を述べたが、分布上からのまとめを試みると次の通りである。

#### 県下における広域分布の普通種

これらに属するのは、ルリクビボソハムシ、アカクビボソハムシ、ヤマイモハムシ、トホシクビボソハムシの4種である。ルリクビボソハムシは部分的に空白地域があるが、産地では個体数も多い。アカクビボソハムシとトホシクビボソハムシは多型現象のみられる種である。

#### 県下における広域分布の希少種

これらに属するのは、キバラクビボソハムシ、キベリクビボソハムシ、スゲクビボソハムシ、イネクビボソハムシの4種である。これらは、いわゆるスポット状の分布型を示すものもある。いずれの産地でも個体数は少なく、稀種に近いものが多い。

#### 県下における偏向性分布種

残りの46%の種は、分布上において何らかの偏向が認められたものである。これらに該当するものは、ルイスクビナガハムシ、ホソクビナガハムシ、キイロクビナガハムシ、アカクビナガハムシ、トゲアシクビボソハムシ、キオビクビボソハムシ、セスジクビボソハムシの7種であった。

大まかに言えば山地帯を中心に生息するものと、

海岸部や平地に生息するものに分けられる。特に、ユリハムシ属(*Lilioceris*)は山地帯に片寄って分布しており、反対にセスジクビボソハムシは海岸部に限って分布している。

また、キオビクビボソハムシについてはまだ1ヶ所で記録されているにすぎないものもある。

## 文 献

1. 阿江茂・ほか(1974)尾張パークウェイ建設予定地の自然環境調査報告書。
2. 浅岡孝知(1991)渥美半島の昆虫相, 伊良湖 19:1~48.
3. 浅岡孝知(1991)宝飯郡御津町の甲虫目, 虫譜 29(2): 33~48.
4. 土井久作(1938)名古屋市付近に産する二・三の注目すべき昆虫
5. 福田彰(1981)青森県のクビナガハムシ亜科(鞘翅目・ハムシ科), 青森県生物学会八戸支部研究資料 27:1~12.
6. 林・森本・木本(1984)保育社原色甲虫図鑑(Ⅳ).
7. 穂積俊文(1966)東海甲虫誌(14).
8. 穂積俊文(1977)東海甲虫誌(21).
9. 穂積俊文(1982)豊橋市東部丘陵初夏の甲虫
10. 穂積俊文(1985)1985年初夏, 三河本宮山の甲虫
11. 伊藤昭博(1964)石巻山の甲虫
12. 岩月学(1952)ヤマイモハムシの生態
13. 岩月学(1953)ヤマイモハムシの生態
14. 岩月学(1978)豊田の昆虫類
15. 岩月学(1978)六所山の昆虫
16. 神谷一男(1955)奥三河の昆虫相
17. Kimoto S. (1964)The Chrysomelidae of Japan and the Rukyu Is. II. Jour. Fac. Agri Kyusyu Univ. 13(1): 119~139.
18. 小島高志(1987)知多半島で採集した甲虫(第2報)
19. 西山武(1980)森林公園の昆虫
20. 大平仁夫・ほか(1978)葦毛湿原の動物
21. 大平仁夫(1985)岡崎市の甲虫類
22. 大野正男(1967)日本産ハムシ科名彙, 東洋大学紀要(自然科学) 13: 31~126.
23. 大野正男(1967)日本産ハムシ科の研究の手引き

- (1-3), 昆虫と自然2(3):14~18; 2(4):9~13; 2(5):25~28.
24. 大野正男(1969)渥美半島のハムシ相
25. 大竹勝(1982)犬山市史史料編・自然
26. 佐藤正孝(1976)茶臼山・面ノ木峠一帯の甲虫相
27. 山崎隆弘(1975)蒲都市の甲虫類
28. 山崎隆弘(1978)富山村のハムシ
29. 山崎隆弘(1980)渥美半島のはむし
30. 山崎隆弘(1980)愛知県豊根村の動物・鞘翅目・ハムシ類
31. 山崎隆弘(1986)船着山のハムシ相
32. 山崎隆弘(1978)豊川市財賀寺のハムシ相
33. 山崎隆弘(1988)遠望峰・宮路山一帯のハムシ相
34. 山崎隆弘(1989)三河本宮山のハムシ
35. 山崎隆弘(1990)南設楽郡作手村で採集した甲虫類, 三河の昆虫37:282~302.
36. 山崎隆弘(1991)愛知県南設楽郡鳳来町のハムシ類, 三河の昆虫38:310~316.
37. 山崎隆弘(1990)愛知県蒲都市でキオビクビボソハ

- ムシを採集, 佳香蝶42(161):11.
38. 山崎隆弘(1990)1989年愛知県豊根村で採集したハムシ科甲虫, 佳香蝶42(162):29~31.
39. 山崎隆弘(1991)愛知県渥美半島産のハムシ類, 虫譜30(1):14~17.
40. 山崎隆弘・穂積俊文(1990)愛知県のハムシ科, 愛知県の昆虫(上):434~460.
41. 安富和男(1950)アカクビボソハムシの生活史及び諸型の遺伝に就いて, 昆虫18(6):144~145.
42. 安富和男(1951)アカクビボソハムシの斑文の遺伝, 遺伝5(7):280~281.
43. 湯浅啓温(1939)本邦産ハムシ科覚書(第四) *Lema diversa* と *lema lewisii*, 昆虫13(4):161~164.
- 愛知県の昆虫(上)の文献目録に掲載されている文献については, 一部を省略してある。

## 岡崎市のクロヒカゲモドキの分布

### 小 鹿 亨

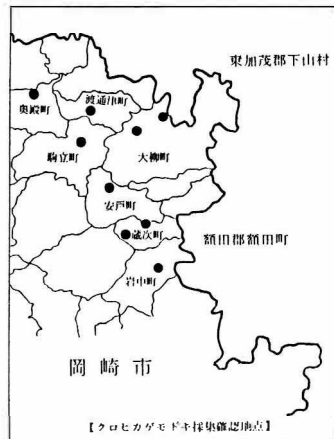
クロヒカゲモドキ *Letha marginalis* の愛知県下での分布は局所的であり, いずれの産地においても個体数はあまり多いものではない。本種は岡崎市内で従来はあまり記録のなかったチョウであるが, 筆者は三河の昆虫39(1992)で, 岡崎市内から1♂1♀を報告している。

今回は1992年の6月~9月にかけて, 岡崎市の北東部の低山地で多数を採集・観察することができたので報告する。

《データ》(すべて岡崎市内で1992年)

- 岩中町 2♂♂ 26-VII, 2♂♂ 30-VII
- 蔵次町 2♂♂ 25-VII,
- 安戸町 1♂ 30-VII
- 大柳町 3♂♂2♀♀ 12-VII
- 5♂♂1♀ 28-VII,
- 2♂♂2♀♀ 3-VIII
- 1♂ 30-VIII, 1♂ 13-IX

- 1♂1♀ 12-IX
- 駒立町 1♂, 1♂目撃 9-VIII
- 渡通津町 1♂目撃 12-VIII
- 奥殿町 1♂ 12-VIII



岡崎市のクロヒカゲモドキの分布

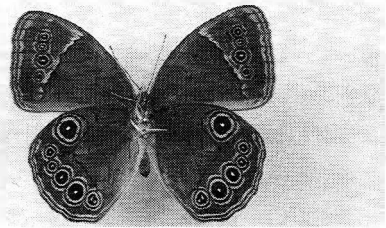
採集されたときの状態から推定して、今年はおそらく7月上旬から発生していたものと考えられ、7月中旬までは新鮮な個体がほとんどで、8月になると翅を破損した個体が多くなり、9月の中旬まで生き残りの姿を見ることができた。

現地での観察では、日中はほとんど活動が見られずに、8月の中旬までは夕方の6時を過ぎるまで、9月の中旬では5時ごろから活発に活動した。特に♂はススキなどに静止して、他の♂が接近すると、激しくからみあうように追い回す行動をとる。そして日没後までそうした占有行動を続けているのを観察することができた。

本種を見かけた環境の多くが周辺を落葉樹の二次林に囲まれた沢で、水田や湿地があるような場所には特に多かった。

今年に採集した約30頭ほどの標本の中には、写真に示すように通常は3個のはずの前翅の眼状紋が、4個になったものが2個含まれており、どちらも♀であった。

なお、この調査で本種を確認した範囲は、標高120 m ~ 260 mの低山地で、岡崎市の東北部のかなり広範囲におよんでいる。この事実は岡崎市内で本種の分布の拡大を同わせるものとして注目される。こうした本種の発生が一時的なものか、あるいは今後も安定して定着していくものか、これからの動向に注意していきたいものである。



また、隣接する東加茂郡下山村は本種の記録に関しては空白地帯であり。杉浦寛氏とともに7月29日に、下山村の南西部(岡崎市との隣接地帯)を調査したが、このときには残念ながら本種を発見することは出来なかった。夕刻に集中する本種の活動時間帯や、本種の好みそうな湿潤な沢が調査した場所にたまたま少なかったことも原因していると思われる。しかしながら、周辺地域にもほぼ確実に分布しているものと考えられるので、機会があれば岡崎市の他の地域や下山村を含む周辺地域についても調査したい。

最後になりましたが、調査に同行していただいた杉浦寛氏に心から感謝いたします。

#### 参考文献

- 高橋 昭ほか(1991) 愛知県の蝶類, 愛知の昆虫(下)  
 小鹿 亨(1992) 岡崎市で採集した蝶類, 三河の昆虫39.  
 杉坂美典(1984) 岡崎市の蝶類, 新編岡崎市史自然編16.

## 三河に産する興味ある昆虫

浅岡孝知

筆者が1992年度に採集した中に、以下の興味ある昆虫を確認することができたので報告する。

これらの昆虫は、あまり報告されることが少ないが、全国的にはそれ程珍しくもないようである。

#### 1 ホソスジデオキノコムシ

*Ascapium tibiale* Lewis

岡崎市岩中町 19-1, 1992 lex.。

立木の幹の溝に潜んでいる本種を得た。それ程珍しくないが、他では新城市、設楽町、稲武町で一例ずつ報告があるくらいである。

#### 2 オサンデムシモドキ

*Apatetica princeps* (Sharp)

稲武町大桑峠 14-VI, 1992 lex.。

ビーティングで本種を得た。他では、僅か豊根村での記録があるだけのようである。

#### 3 オニコメツキダマシ

*Hylocharis harmandi* Fleutiaux

設楽町塩津 13-VI, 1992 lex.。

ビーティングで本種を得た。他では、豊根村、富山村での記録があるくらいである。



4 キムネツツカッコウムシ

*Tenerus maculicollis* Lewis

豊川市千両町 21-V, 1992 lex.。

ナイトトラップにて飛来した本種を得た。僅か一例が豊根村での記録としてある。低山地で得られたのは興味深い。(図, A)

5 ヨツボシオオキノコムシ

*Eutriplax tuberculifrons* (Lewis)

稲武町面ノ木峠 30-VIII, 1992 lex.。

頭上のキノコをビーティングして本種を得た。けって珍しい種ではないと思われるが県内初記録のようである。(図, B)

6 クロヒラタオオキノコ

*Renania atrocyanea* Lewis

稲武町面ノ木峠 31-V, 1992 lex.。

キノコのビーティングにより本種を得た。同地で僅か一例記録されているにすぎない。

7 クスアナアキゾウムシ

*Dyscerus orientalis* (Motschulsky)

稲武町面ノ木峠 30-VIII, 1992 1♂1♀。

樹上の本種を目で確認し得た。他では岡崎市と新城市での記録があるくらいである。(図, C)

8 ミドリシジミ

*Neozephyrus japonicus* (Murray)

渥美町和地 21-VI, 1992 3♂。

山崎隆弘氏と所用で出掛けした時に偶然光るシジミを見つけ、ハンノキ周辺を飛ばしている本種を得た。本種は豊橋市までの分布がこれまで確認されていた。渥美半島での確認は初めてのことである。しかも距離的に離れているので興味深い。

参考文献

穂積俊文ほか(1990) 愛知県の昆虫(上)

高橋 昭ほか(1991) " (下)

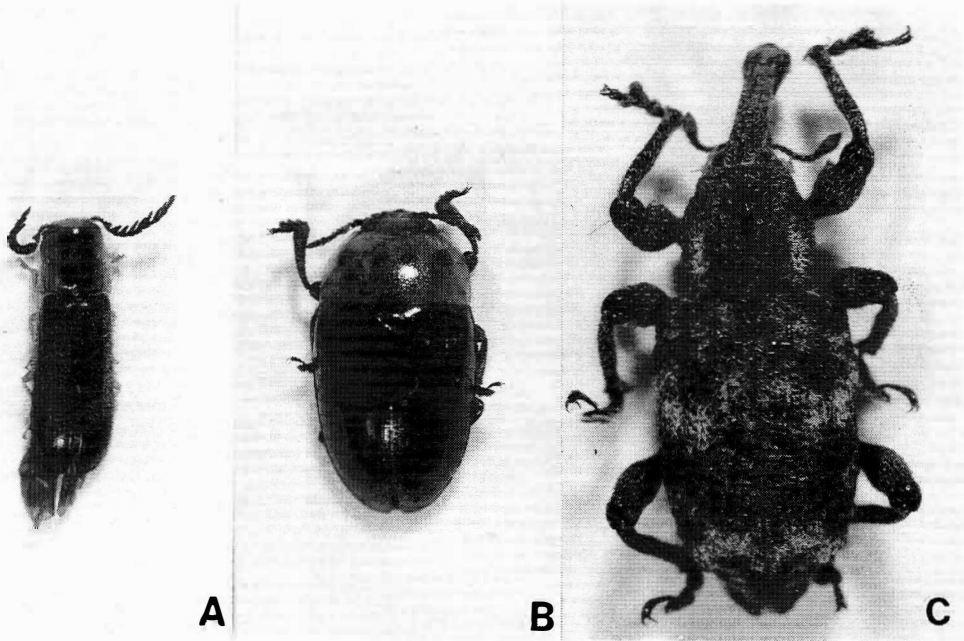


図 A キムネツツカッコウムシ  
 B ヨツボシオオキノコムシ  
 C クスアナアキゾウムシ

# 三河地方のコメツキムシ雑記 (4)<sup>1)</sup>

大平仁夫

三河地方のコメツキムシ類はかなりよくわかってきて、追加種はあまり出なくなっているが、分布状態の実体や、どのような環境に生息しているかなどの調査はまだこれからの段階である。今後、このシリーズではこれらのことについて判明したことを順次報告して行きたいと思う。

## 1. *Harminathous suturalis*

(Candèze, 1873)

### フトツヤハダコメツキ (図, A)

本種は本州、四国、九州の各地に広く分布することが知られているが、どこでも個体数は多くないようである。愛知県からは大平(1985)によって山崎隆弘氏が1978年8月4日に段戸裏谷で採集された1雄個体が紹介されている。今までの記録はこれだけで、段戸裏谷が唯一の産地になっていた。

筆者は本種を面ノ木峠で1992年8月15日に1雄個体を打網採集で得た。前記の段戸裏谷での採集も8月であり、今度も8月で裏谷より10日間おそい記録である。一般に8月に入ると、愛知県の山ではコメツキムシは殆んどみられなくなるので、このおそい記録は大変興味がある。

体長は15mm内外。体は濃栗色で光沢を有し、触角と肢は黄褐色。前胸背板の周辺部、上翅の会合線部や周縁部は褐色味を呈する。

調査標本：1雄，面ノ木峠，1992年8月15日，大平仁夫採集。

## 2. *Selatosomus vagepictus*

(Lewis, 1894)

### ヒメウストラフコメツキ (図, B)

本種は本州、四国、九州の各地に広く分布する

が、一般に低地性で、主として河川周辺の雑木林や畑地周辺の灌木林などで見出されることが多い。ユキヤナギの花上で得られたという記録もある。幼虫も判明しており、大平(1962)によれば、幼虫は竹藪を開拓した土壤中とか笹などが生えている土壤中に生息するとしている。

本種は愛知県では定光寺、岡崎、小渡などが知られているにすぎない。小渡は蟹江昇氏の採集品で、大平(1987)が記録している。本種は東三河地方からは未知であったが、筆者は豊川市当古町の豊川沿いの畑周辺の灌木林で本種を数頭採集した。ここは、岡崎で幼虫が見出された乙川河川敷の環境によく似ており、幼虫もその周辺の土壤中に生息していると思われる。

調査標本：3雄2雌，豊川市当古町，1992年5月15日，大平仁夫採集。

## 3. *Fleutiauxellus quadrillum*

(Candèze, 1873)

### ヨツモンミズギワコメツキ (図, C)

本種は北海道から九州に至る各地に広く分布する種であるが、小形種であるのと、生息場所が河川周辺の草地の砂礫中や芝生地の砂礫中などやや特殊な場所であるのと、成虫の発生期が4月～6月頃と短いため、一般の採集では目につきにくいこともあり、愛知県内での採集記録も少ない。しかし、発生場所がみつかると、数頭ときに数十頭の集団で見出されることがある。

愛知県内では尾張地方では矢田川や庄内川の河川敷、祖父江町(多分木曾川河川敷)などから記録されており、西三河地方では岡崎市、東三河地方では蒲郡市、鳳来町、段戸裏谷、茶臼山などが知られている。

ここに図示したのは、クモ類の研究家の緒方清人氏が知立市牛田において採集された個体で、西三河地方では岡崎に次いでこの記録である。

1) (3), 鳳来寺山自然科学博物館館報,

(21): 9~11, 1990.

体長は4mm内外。体は黒色で光沢を有し、触角は黒褐色で基部3節は黄褐色、肢は黄褐色～暗褐色、上翅には図示したような黄紋を生ずる美麗種である。

調査標本：1雌，知立市牛田，1992年5月22日，緒方清人採集。

#### 4. *Quasimus ovalis*

(Candèze, 1873)

マルマメコメツキ (図, D)

本種は本州の中部以南，四国，九州の各地から分布が知られている種で，マメコメツキの仲間では，楕円形状をした幅広い体形などから比較的良好に知られている種である。

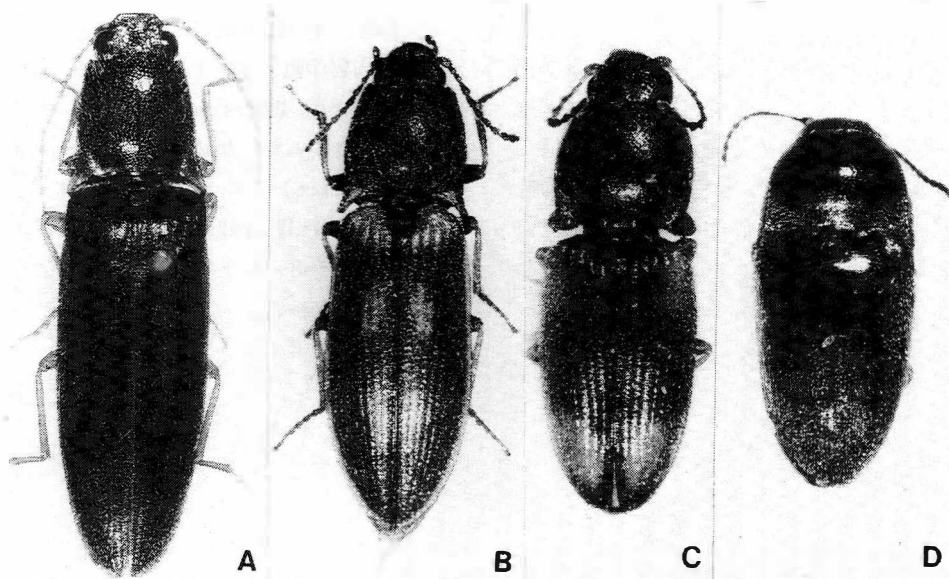
愛知県内では大平・浅岡(1976)によって蒲郡と鳳来寺の産地が知られているのみであるが，こ

れの詳しいデータは明らかではない。その後，大平(1985)は山崎隆弘氏が蒲郡市(御堂山)で，1980年4月25日に採集された個体を記録しており，これが現在では最も正確な記録と思われる。

ここに図示したのは，設楽町キビウにおいて，1992年9月13日に山崎隆弘氏によって採集された個体である。ここでは唯1頭のみしか見出されなかったが，このような季節はずれのときに採集された例はない。本種を含めてマメコメツキ類の生態は断片的にしかわかっていないので，これは貴重な記録と思われる。成虫態での越冬の可能性もあると推察される。

体長は2mm内外。楕円形状をした黒色で光沢を有する種である。

調査標本：1雌，設楽町キビウ，1992年9月13日，山崎隆弘採集。



#### 引用文献

- 大平仁夫(1962)日本産コメツキムシ科の幼虫の形態学的ならびに分類学的研究：1-179。(自刊)  
大平仁夫・浅岡孝知(1976)愛知県のコメツキ虫(北設楽山岳地帯を中心にして)。茶臼山高原道路建設予

定地域の自然環境調査報告書：141～153

- 大平仁夫(1985)山崎隆弘氏採集の三河地方のコメツキムシ。三河の昆虫，(32)：170～178。  
大平仁夫(1987)愛知・岐阜県のコメツキムシ若干種。三河の昆虫，(34)：226～227。

# 光に集まる岡崎市のカメムシ目

浅岡孝知

ナイトトラップは、特に蛾類を調べている人にとっては有益な採集方法である。しかし、甲虫を調べている人にとっても面白いものである。筆者は、カメムシ目を調べるために年何回かは試みるのである。カメムシにとっては、夏から秋ごろがよいようである。ここでは、岡崎市の場合を例にあげてみたい。

## 調査・方法

方法は各人各様であり、どの方法が一番かとも言えないが、多く虫が集まるのに越したことはない。したがって、何を集めるかによって自ずと決ってくる。

筆者の場合は、どちらかといえばオーソドックスであろう。40Wの蛍光管を使う。昼白色とケミカルライトを併用する。そして、裸電球をヨコバイ用に使う。しかし、現在も改善中である。

さて、筆者は1992年度に岡崎市の北部の大柳町、岩中町、中央部に近い高隆寺町や南部の藤川町で調べることができたので以下に目録を添えてその概要を述べたい。調査地は平地から低山地であるので、多くを期待できないが少しは環境を考えるのに指針を与えてくれる。



図-1 岡崎市の位置と調査地

## 出現種の目録

### ツチカメムシ科 Cydnidae

- 1 ツチカメムシ *Macroscytus japonensis*  
(Scott)

岩中町 14-VIII, 1991 1ex.。

### カメムシ科 Pentatomidae

- 2 シラホシカメムシ *Eysarcoris ventralis*  
(Westwood)

大柳町 4-VII, 1992 1ex., 岩中町 14-VIII,  
1991 2ex.。

- 3 ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus*  
Walker

大柳町 4-VII, 1992 2ex., 1-VIII, 1992  
4ex., 岩中町 13-X, 1991 4ex., 高隆寺  
町 10-IX, 1992 1ex.。

- 4 クサギカメムシ *Halyomorpha picus*  
(Fabricius)

大柳町 4-VII, 1992 1ex., 1-VIII, 1992 4ex.,  
高隆寺町 8-VII, 1992 1ex., 藤川町 16-  
V, 1992 2ex.。

- 5 アオクサカメムシ *Nezara antennata*  
Scott

岩中町 13-X, 1991 2ex.。

- 6 チャバネアオカメムシ *Plautia crossota*  
*stali* Scott

大柳町 4-VII, 1992 1ex., 1-VIII, 1992  
6ex., 岩中町 14-VIII, 1991 4ex., 13-X,  
6ex., 高隆寺町 8-VII, 1992 1ex., 10-IX,  
1992 1ex., 藤川町 16-V, 1992 7ex.。

### ツノカメムシ科 Acanthomatidae

- 7 アオモンツノカメムシ *Dichobothrium*  
*nubilum* (Dallas)

岩中町 14-VIII, 1991 1ex.。

- 8 モンキツノカメムシ *Sastragala scutell-*  
*ata* (Scott)

岩中町 14-VIII, 1991 1ex.。

- ヘリカメムシ科 Coreidae
- 9 オオクモヘリカメムシ *Anacanthocoris stricicornis* (Scott)  
岩中町 14-VIII, 1991 1ex.。
- ホソヘリカメムシ科 Alydidae
- 10 ホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus* (Thunberg)  
大柳町 1-VIII, 1992 1ex.。
- クヌギカメムシ科 Urostylidae
- 11 クヌギカメムシ *Urostylis westwoodi* Scott  
岩中町 13-X, 1991 2ex.。
- ナガカメムシ科 Lygaeidae
- 12 ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus* Distant  
高隆寺町 10-K, 1992 1ex.。
- 13 チャイロナガカメムシ *Neolethaeus dallasi* (Scott)  
大柳町 4-VII, 1992 1ex., 高隆寺町 8-VII, 1992 1ex., 10-K, 1992 1ex.。
- 14 モンシロナガカメムシ *Panaorus albomaculatus* (Scott)  
高隆寺町 8-VII, 1992 1ex.。
- 15 キベリヒョウタンナガカメムシ *Paraparnis lateralis* (Scott)  
高隆寺町 10-K, 1992 2ex.。
- サシガメ科 Reduviidae
- 16 ホソサシガメ *Pygolampis cognata* Horvath  
高隆寺町 8-VII, 1992 1ex., 藤川町 16-V, 1992 1ex.。
- 17 キイロサシガメ *Sirthena flavipes* (Stal)  
藤川町 16-V, 1992 1ex.。
- マキバサシガメ科 Nabidae
- 18 ハネナガマキバサシガメ *Nabis stenoferrus* Hsiao  
岩中町 14-VIII, 1991 2ex., 高隆寺町 10-K, 1992 2ex.。
- メクラカメムシ科 Miridae
- 19 マツノヒゲホソメクラガメ *Alloeotomus simplex* (Uhler)  
高隆寺町 10-K, 1992 1ex.。
- 20 ナガグロメクラガメ *Adelphocoris suturalis* (Jakovlev)  
岩中町 14-VIII, 1991 1ex.。
- 21 メンガタメクラガメ *Eurystylus coelestialium* (Kirkaldy)  
岩中町 14-VIII, 1991 1ex.。
- オオホシカメムシ科 Largidae
- 22 ヒメホシカメムシ *Physopelta cincticollis* (Stal)  
大柳町 4-VII, 1992 1ex., 1-VIII, 1992 4-ex., 岩中町 14-VIII, 1991 2ex., 高隆寺町 8-VII, 1992 1ex., 藤川町 16-V, 1992 1ex.。
- 23 オオホシカメムシ *Physopelta gutta* (Burmeister)  
大柳町 1-VIII, 1992 2ex., 藤川町 16-V, 1992 1ex.。
- ホシカメムシ科 Pyrrhocoridae
- 24 フタモンホシカメムシ *Phrrhocoris sibiricus* Kuschakewitsch  
岩中町 14-VIII, 1991 1ex., 高隆寺町 8-VII, 1992 2ex., 10-K, 1992 1ex.。
- ヒラタカメムシ科 Aradidae
- 25 ノコギリヒラタカメムシ *Aradus orientalis* Bergroth  
大柳町 4-VII, 1992 1ex.。  
ふつうライトにはほとんど飛来しない。
- 26 イボヒラタカメムシ *Usingerida verrucigera* (Bergroth)  
大柳町 4-VII, 1992 1ex.。  
本種もほとんどライトに飛来しない。
- イトアメンボ科 Hydrometridae
- 27 イトアメンボ *Hydrometra albolineata* (Scott)  
高隆寺町 10-K, 1992 2ex.。
- ミズムシ科 Corixidae
- 28 コミズムシ *Sigara substriata* Uhler  
大柳町 4-VII, 1992 6ex.。

- セミ科 Cicadidae**
- 29 クマゼミ *Cryptotympana facialis*  
(Walker)  
大柳町 1-VIII, 1992 1ex.。
- 30 ツクツクボウシ *Meimura opalifera*  
(Walker)  
高隆寺町 8-VII, 1992 3ex.。
- 31 ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi*  
(Fabricius)  
大柳町 1-VIII, 1992 1ex.。
- コガシラアワフキ科 Cercopidae**
- 32 コガシラアワフキ *Eoscartopis assimilis*  
(Uhler)  
大柳町 4-VII, 1992 2ex., 1-VIII, 1992  
3ex., 岩中町 14-VIII, 1991 1ex., 高隆寺  
町 8-VII, 1992 1ex.。
- アワフキムシ科 Aphrophoridae**
- 33 マエキアワフキ *Aphrophora costalis*  
(Matsumura)  
岩中町 13-X, 1991 2ex.。
- 34 マツアワフキ *Aphrophora flavipes*  
Uhler  
岩中町 13-X, 1991 1ex., 高隆寺町 10  
-IX, 1992 1ex.。
- 35 シロオビアワフキ *Aphrophora intermedia*  
Uhler  
大柳町 1-VIII, 1992 1ex., 岩中町 13-X,  
1991 1ex.。
- 36 ホシアワフキ *Aphrophora stictica*  
Matsumura  
岩中町 14-VIII, 1991 1ex., 13-X, 1991  
2ex.。
- 37 モンキアワフキ *Yezophora flavomaculata*  
(Matsumura)  
大柳町 4-VII, 1992 1ex., 岩中町 13-X,  
1991 1ex.。
- ミミズク科 Ledridae**
- 38 ミミズク *Ledra auditura* Walker  
大柳町 4-VII, 1992 3ex., 1-VIII, 1992 2-  
ex., 岩中町 14-VIII, 1991 2ex.。
- ヒロズヨコバイ科 Macropsidae**
- 39 フタオビハトムネヨコバイ *Macropsis ma-  
tsumurana* China  
高隆寺町 8-VII, 1992 1ex., 藤川町 16-  
V, 1992 2ex.。
- アオズキンヨコバイ科 Iassidae**
- 40 ヒメアオズキンヨコバイ *Batracomorphus  
diminutus* (Matsumura)  
岩中町 13-X, 1991 4ex., 高隆寺町 8-  
VII, 1992 1ex.。
- 41 アオズキンヨコバイ *Batracomorphus mu-  
ndus* (Matsumura)  
大柳町 4-VII, 1992 1ex., 岩中町 13-X,  
1991 1ex., 高隆寺町 8-VII, 1992 1ex.。
- 42 セグロアオズキンヨコバイ *Iassus dorsa-  
lis* (Matsumura)  
大柳町 1-VIII, 1992 4ex.。
- ヒラタヨコバイ科 Aphrodidae**
- 43 クロサジヨコバイ *Planaphrodes nigrica-  
ns* (Matsumura)  
大柳町 1-VIII, 1992 3ex.。  
広く分布するが個体数は少ない。
- オオヨコバイ科 Cicadellidae**
- 44 ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia ferr-  
uginea* (Fabricius)  
藤川町 16-V, 1992 2ex.。
- 45 オオヨコバイ *Cicadella viridis*  
(Linnaeus)  
大柳町 1-VIII, 1992 3ex., 高隆寺町 8-  
VII, 1992 1ex., 10-IX, 1992 1ex.。
- ヒメヨコバイ科 Typhlocybidae**
- 46 カンキツヒメヨコバイ *Apheliona ferrug-  
inea* (Matsumura)  
大柳町 1-VIII, 1992 3ex., 岩中町 14-VIII,  
1991 2ex.,
- 47 ミドリヒメヨコバイ *Edwardsiana flave-  
scens* (Fabricius)  
大柳町 4-VII, 1992 1ex.。
- ヨコバイ科 Deltocephalidae**
- 48 ヒシモンヨコバイ *Hishimonius sellatus*  
(Uhler)

- 大柳町 4-VII, 1992 1ex., 1-VIII, 1992 3ex.  
 岩中町 14-VIII, 1991 2ex., 13-X, 1991 3ex., 藤川町 16-V, 1992 2ex.。
- 49 トガリヨコバイ *Doratulina producta* (Matsumura)  
 大柳町 4-VII, 1992 1ex., 岩中町 13-X, 1991 1ex.。
- 50 ツマグロヨコバイ *Nephotettix cincticeps* (Uhler)  
 大柳町 1-VIII, 1992 8ex., 高隆寺町 10-IX, 1992 1ex.。
- 51 モジヨコバイ *Animenus mojiensis* (Matsumura)  
 大柳町 4-VII, 1992 2ex.。
- 52 リンゴマグラヨコバイ *Orientus ishidae* (Matsumura)  
 岩中町 13-X, 1991 1ex., 高隆寺町 10-IX, 1992 1ex.。
- 53 シロセスジヨコバイ *Scaphoideus albivittatus* Matsumura  
 岩中町 14-VIII, 1991 2ex., 13-X, 1991 2ex.。
- 54 シラホシスカシヨコバイ *Scaphoideus festivus* Matsumura  
 大柳町 1-VIII, 1992 3ex., 岩中町 13-X, 1991 3ex.。
- ブチミャクヨコバイ科 Drabescidae**
- 55 コブチミャクヨコバイ *Drabescus nakaneensis* Matsumura  
 高隆寺町 10-IX, 1992 1ex.。
- 56 ブチミャクヨコバイ *Drabescus nigrifemoratus* (Matsumura)  
 岩中町 14-VIII, 1991 1ex., 高隆寺町 10-IX, 1992 1ex.。
- アオバハゴロモ科 Flatidae**
- 57 アオバハゴロモ *Geisha distinctissima* (Walker)  
 岩中町 13-X, 1991 2ex.。
- ハゴロモ科 Ricaniidae**
- 58 アミガサハゴロモ *Pochazia albomaculata* (Uhler)  
 岩中町 14-VIII, 1991 1ex., 13-X, 1991 1ex.。
- ヒシウンカ科 Cixiidae**
- 59 ヒシウンカ *Pentastiridius apicalis* Uhler  
 藤川町 16-V, 1992 1ex.。
- ゲンバイウンカ科 Tropiduchidae**
- 60 タテスジゲンバイウンカ *Catullia vittata* Matsumura  
 岩中町 14-VIII, 1991 2ex.。
- コガシラウンカ科 Achilidae**
- 61 ウチワコガシラウンカ *Catanidia sobrina* (Uhler)  
 岩中町 14-VIII, 1991 2ex.。
- ウンカ科 Delphacidae**
- 62 エゾナガウンカ *Stenocranus matsumurai* (Metcalf)  
 高隆寺町 8-VII, 1992 1ex.。
- 63 ヒメトビウンカ *Laodelphax stratella* (Fallen)  
 岩中町 13-X, 1991 3ex., 高隆寺町 10-IX, 1992 3ex.。
- 64 トビイロウンカ *Nilaparvata lugens* (Stal)  
 岩中町 13-X, 1991 1ex.。
- 65 セジロウンカ *Sogatella furcifera* (Horvath)  
 岩中町 14-VIII, 1991 2ex., 高隆寺町 10-IX, 1992 2ex.。
- 66 セスジウンカ *Terthron albivittatum* (Matsumura)  
 岩中町 14-VIII, 1991 1ex.。

### 結果とライトトラップの有効性

以上32科66種について報告する。結果から単に数字だけで考えるのは適当ではない。むしろ、トラップの設置場所やその日の天候等のコンディションによって、その差は著しい。各調査日の全出現種に対するカメムシ目の出現率は、大柳町では、約12%、約17%であり、岩中町では、約18%、約38%である。また、高隆寺町では、約11%、約15

%であり、藤川町では、約10%であった。そして、出現種数は凡そ10種から25種である。

出現種はほとんどが平地にふつうに見られる種である。特にナイトトラップをしなくてもスィーピングをすれば得られる種が多いが、今まで採集がされなかったり、スィープされても見逃されていたものと思われる。

ナイトトラップをすることにより、普通種であっても、目の前に個体を捕らえることでより重要種のように思われるところに興味がある。

一方、岡崎市のカメムシ目については、岡崎市

誌(1984)に101種、愛知県の昆虫(1990)に125種が報告されている。今度の調査で、追加が34種あり、合わせて159種となる。これは一通過点であり、今後更に多くの種が確認されていくものと思われる。

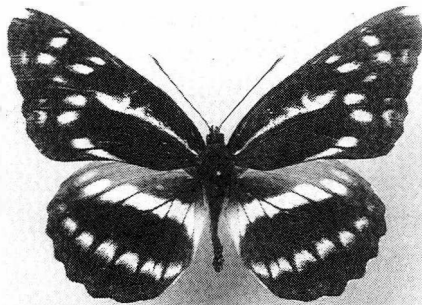
参考文献

鈴木栄二(1984)岡崎市誌 自然14  
穂積俊文ほか(1990)愛知県の昆虫(上)

## 岡崎で採集したオオミスジ

小 鹿 亨 ・ 小 鹿 登 美

オオミスジ *Neptis alwina kaempferi* の愛知県内での分布は、奥三河部にその中心があり、岡崎市ではこれまで記録の少ないチョウである。筆者らは岡崎市北東部において、本種を採集しているので記録として報告する。



《データ》

岡崎市大柳町

5-VII-1992 2♂♂, 12-VII-1992 2♂♂

26-VII-1992 1♂, 2-VIII-1992 1♂2♀

岡崎市蔵次町

5-VII-1992 1♂

全て筆者採集・標本保管

畑や田の周囲に植栽されたウメに発生しているものと思われる。

参考文献

杉坂美典(1984)岡崎市の蝶類, 新編岡崎市史自然編16

## 茶臼山山頂でツマグロヒョウモンを採集

杉 浦 寛

筆者は、愛知県と長野県の境となっている茶臼山山頂で、ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* を採集したので報告する。

《データ》1 愛知県北設楽郡豊根村茶臼山  
VIII-1-1992 筆者採集・標本保管

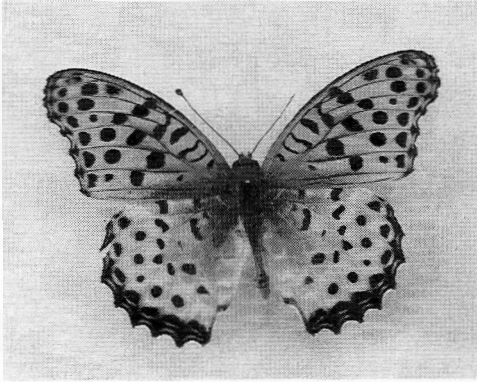
本個体は、山頂(1,415 m)にある展望台付近

で、占有行動をしていたところを採集したものである。

ツマグロヒョウモンは暖地性の蝶で、豊根村での採集報告はない。県内での記録は発散的で、多くは南方からの飛来と考えられるが、本個体はほとんど傷んでおらず、近年、三重県での採集報告



も増えてきていることから、茶臼山近辺の山麓で発生した可能性が考えられる。



### 参考文献

- 鈴木友之, 1980. 第Ⅱ部 豊根村の動物目録蝶類, 愛知県豊根村の動物; 160-165.  
 阿部 茂, 1976. 愛知県北設楽地方の蝶類, 茶臼山高原道線建設予定地域の昆虫相; 215-223.  
 中西元男, 1990. 紀伊半島を北上しつつある蝶, 蝶研フィールド5(11); 14-17.

## 8月の茶臼山でスミナガシ春型を採集

杉 浦 寛

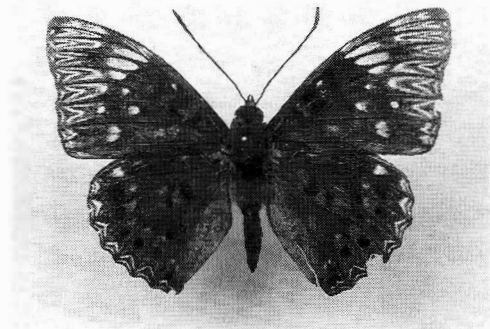
筆者は愛知県と長野県の県境にある茶臼山の山頂で、季節的にかなりおそいと思われるスミナガシ *Dichorragia nesimachus* の春型を8月に採集しているので報告する。

〈データ〉 愛知県北設楽郡豊根村茶臼山  
 1-VIII-1992 1 (春型)

翅はかなり飛びふるしたように見受けられるが、明かに春型である。1992年はいろいろなチョウの発生がおくれた年であったように思う。このスミナガシもおくれて羽化して、おそくまで生き残ったものかもしれない。

また、翌日に茶臼山の長野県側で、当地方では記録の少ないと思われるコキマダラセセリ *Ochl-*

*odes ochraceus* 1♀を採集していることを付記する。



## 岡崎市でアミメキシタバを採集

小 鹿 亨

アミメキシタバ *Catocala hyperconnex* の県内での記録は局地的であり、愛知の昆虫(下)(1991)、および岡崎市史(1984)にも岡崎市内での記録は見あたらない。

筆者は岡崎市内の2ヶ所で、本種を採集しているので報告する。

〈データ〉

愛知県岡崎市桑原町 1頭

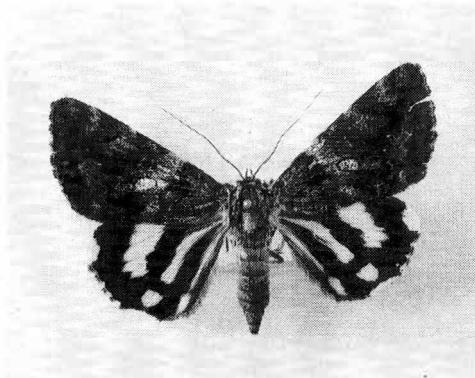
10-VIII-1992. 筆者採集・標本保管(図)

夕刻にアベマキの樹皮で静止している個体を採集した。

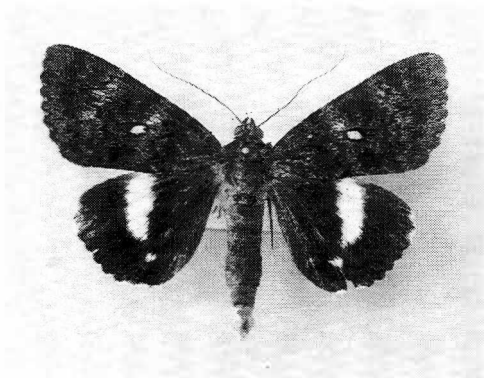
愛知県岡崎市高隆寺町 1頭

13-K-1992. 筆者採集・標本保管

ライトトラップにコシロシタバと共に飛来した。



(アミメキシタバ)



(コシロシタバ)

参考文献

愛知の昆虫(下)(1991) 愛知県の蛾類

三浦重光(1984) 岡崎市の蛾類, 新編岡崎市史自然編16

## 豊橋でネアカヨシヤンマを採集

小 鹿 亨

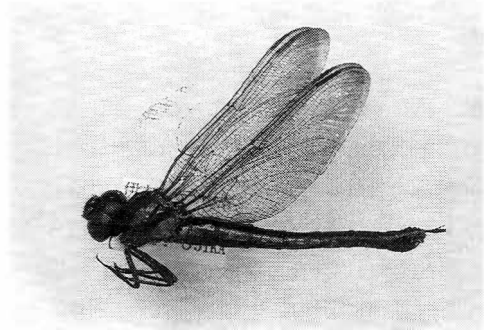
ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* は愛知の昆虫(上)(1990)によると、県内では近年著しく数を減らした種のようなのである。

筆者は本種を豊橋市伊古部町において採集しているので報告する。出現期の終わりであったため、ずいぶん破損した♀を採集した。

〈データ〉

豊橋市伊古部町 25-VIII-1992 1♀

27-VIII-1992 1♀



## オオムラサキ成虫を岡崎市内で採集

小 鹿 亨

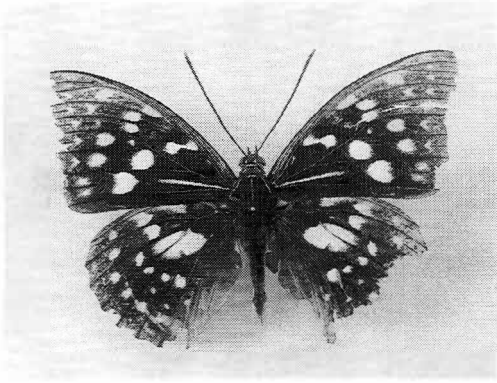
筆者はオオムラサキ *Sasakia charonda* の成虫を、岡崎市桑原町で採集しているので記録として報告する。

〈データ〉

愛知県岡崎市桑原町 1♂

10-VIII-1992. 筆者採集・標本保管

午後の5時頃、アベマキの樹液に飛来したところを採集したもので、本種としてはかなり時期がおそいため、前翅・後翅ともにひどく破損した個体であった。



不明